冬号
No.48

十全ユリノキ病院ニュース●2021.1.29発行 《年4回発行》

こころ

あたたかい心、思いやりの心、私達は心の医療を推進します。

十全ユリノキ病院
精神科応急入院指定病院

〈理念〉
一. 私達は、前向きで建設的に考えよう。
一. 私達は、開かれた医療を展開して行こう。
一. 私達は、自ら学び、研鑽し続けよう。

〈基本方針〉
1. 思いやりある、利用者中心の医療を目指す。
2. 過不足のない支援で、社会復帰を促進する。
3. 働き甲斐のある、職場を創り出す。

季節のしゃしん
「冬の夕日に照らされて」

スペイン風邪から百年

理事長 太田純一

約百年前、世界中にインフルエンザが流行しました。いわゆるスペイン風邪です。一説ではスペインの王族が死んだので、スペイン風邪となったそうです。日本でも数十万人の死者を出したと言われています。当時ワクチンがなかったので、なんと3年間も猛威を振るったそうです。

今回は新型コロナウイルスという、またしても人類が初めて経験するウイルスです。SARS、MARSというものが大陸で流行したのですが、ワクチンは未だ出来ていない。致死率が数段高く早く終息した為、ワクチン開発も終了したからです。ところが今回の新型コロナは無症状の人も居て、感染者を発見することが大変困難になっています。

厄介な事は、新型コロナに感染した人を差別して責める事です。更に新型コロナを治療している病院職員とその家族を差別視する事です。同じ医療従事者として本当に居た堪れません。何分百年振りのパンデミック、恐れる気持ちは分かりますが、差別される側の気持ちも理解してほしい。自分が差別されたら辛いだろうと共感し、ワクチン開発の暁には、是非差別がなくなる事を期待したいものです。

ところで、欧米と比較すると、感染率、死亡率共に日本は低いので幸運でした。理由はまだ解明されてない。欧米では毎日感染者が壱万名超。米国では死亡者が28万名を超えた。例えば、広島の原爆で直接その日の内に亡くなったのが20万人と云われている。後遺症で更に40万人が死するわけだが、コロナで150万人が亡くなっている。

ホモ・サピエンスとして試されているのだろうか?人類は何万年も試練を乗り越えてきた。近年はペスト、コレラも然り。しかし恐ろしいのは、病原体ではなく、差別視する人の心ではなかろうか?人間社会において、信頼できる相手が居ることが、一番の安心安全なのだから!

自立訓練(生活訓練・宿泊型訓練)事業所 国領荘のご紹介

居室(短期入所)

娯楽室

国領荘では、病院を退院した方やご家族からの自立を目指す方が、1人暮らしをするための準備ができる施設です。食堂や洗濯場、娯楽室など、必要な設備が整っています。

受けられるサービスには、次の3つの形態があります。

◆宿泊型自立訓練

1人1部屋で居室をご利用いただき、一定期間(基本的には2年間)を国領荘で生活します。その中で、自立に向けた準備を、スタッフがお手伝いいたします。

◆生活訓練

日中国領荘へ通所いただき、個々の状況に応じた生活能力の向上を目指します。
内容…入浴、調理、買物、洗濯、掃除、服薬指導、金銭管理 等

◆短期入所

精神疾患等を抱え在宅生活を送る方で、同居家族が何らかの理由で支援できないときや、一時的な休息を必要とされる方に向けたサービスです。当施設の居室を短期間ご利用いただけます。

施設見学のご希望や、ご不明な点等ございましたら、0897-41-2258までご連絡ください。

■ 所在地のご案内

■ 交通のご案内
JR新居浜駅より南 約5km
〈市内バス〉 山根グランドバス停より徒歩…… 約10分
〈タクシー〉 JR新居浜駅より…… 約10分
〈車〉 新居浜ICより西 約2km …… 約3分

2021・1・1000

VEGETABLE OIL INK
環境負荷を抑えた植物油インキと適切に管理された森林から生産された紙を使用しています。

編集後記

今回も第48号広報誌冬号を発刊いたしました。是非御一読ください。
寒さもいちだんと厳しくなりましたが、皆様にはお健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。新年を迎え、世界中で今年こそはとコロナウイルスの終息を願った方は多いのではないでしょうか。当院でも職員一同思いを1つに、この長い『冬』を乗り越えていきたいと思います。

十全ユリノキ病院
Juzen Yurinoki Hospital
〒792-0844 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28
TEL0897-41-2222 FAX0897-41-2224
http://www.juzenhp.jp/
E-mail juzen@juzenhp.jp

関連施設

◎生活のしづらさをもつ患者さまの社会参加と社会復帰をお手伝いしています。
自立訓練(生活訓練・宿泊型訓練)事業所国領荘 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-41-2258

◎単身生活が困難な患者さまの生きがいをもった自立への道を援助しています。
グループホーム船木の里 愛媛県新居浜市国領甲4819-5 TEL0897-41-2258

◎患者さまのご家庭に伺い、療養上のお世話・援護を行っています。
訪問看護ステーションれんげの会 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-43-5653

◎生活に関する相談や福祉サービスの紹介などを行っています。
指定相談支援事業所まごころの会 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-47-6682

◎お年寄りの生活にふさわしい環境の中で共同生活を行い、生活能力の回復と維持を図っています。
グループホームむつみの家 愛媛県新居浜市中萩町9-52 TEL0897-43-1022

飽きないメニューで毎日を楽しく

入院患者さんにとって、日々の食事は大きな楽しみの1つです。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で、外食レクリエーション等を制限させていただいており、病院食はより大切なものとなっています。

当院は、長期入院の患者さんにも、飽きずに食事を心待ちにしてもらえることを目指しています。年間を通してクリスマスや正月、七草、ひな祭りなどの行事食はもちろん、日頃患者さんの好みに対応できるよう、昼食、夕食はメニューを選択できるようになっています。また嗜好調査を実施し、その結果をもとに献立作成を行い、火曜日は麺類、水曜日には統一献立(スペシャルメニュー)を提供して日常の食事に変化をもたせています。

麺類の日は、蕎麦・うどん・ラーメン・焼きそば・パスタを週替わりで提供しています。ソース焼きそば、味噌ラーメン、カレーうどん、肉うどん、ミートスパゲティなどの定番人気メニューや、海鮮塩焼きそば、担々麺、すき焼きうどん、生姜白菜うどん、鮭とほうれん草のクリームパスタなどの珍しいメニューで、季節感も味わっていただけるように工夫をこらしています。

統一献立には、カレーや丼もの、チャーハン、混ぜ寿司、炊き込みご飯など嗜好調査でも上位に上がるメニューをはじめ、トンチマヨ丼、ダッカルビ、ビビンバ、オムハヤシ、ナシゴレン風チャーハン、ロールサンドなどバラエティーに富んだメニューも取り入れています。

これからも栄養バランスを最大限考慮し、患者さんが楽しめる食事を提供していきたいと思います。

担々麺

オムハヤシ

トンチマヨ丼

鮭とほうれん草のクリームパスタ

◆栄養教室の予定◆

日　時　毎月第1水曜日　　場　所　新棟会議室

参加者　入院・外来の患者さん・ご家族の方

月	テ ー マ	担当管理栄養士
2月	不足しがちな栄養素 ビタミン・ミネラルを効果的に摂るにはどうしたらいいの	新土居
3月	身体に良い食事の摂り方を学びませんか 時間栄養学(体内時計)で見直す食生活 1日3食「いつ」「どのように」「なにを」「どれだけ」食べる	山 内
4月	健康の大敵は肥満～なぜ太ってしまうの？～ 肥満指数(BMI)から自分の適正体重を知ろう	本 藤

新人教育講義を実施しました!!

11月20日㈮、新人教育講義を実施しました。

今年度は17名の新人職員の参加がありました。講義内容は村上看護部長の「精神科の歴史と当院の沿革」から始まり、新人としての心得、接遇やマナーについて、当院の研修制度など、今後社会人として生活や仕事をする上で基礎となるような研修内容でした。講義後、参加者からは「社会人としての接遇やマナーについて知らないことが多かったので、再認識できた」や「改めて精神科看護や自分の看護観について考える良い機会になった」など前向きな意見が多く寄せられました。

ここで得た知識を活かし、チームユリノキの一員として、ますます活躍してくれることを願っています。

依存症への新たなアプローチ方法『ハームリダクション』とは

2病棟　精神科認定看護師　**玉乃井　雅　浩**

薬物依存等への新たなアプローチ方法として、『ハームリダクション』を取り入れる国が増えています。日本では『寛容な治療』や『緩い治療』と誤解されることの多いこのハームリダクションとは、どういった考え方なのでしょうか。

ハームリダクション(harm reduction)とは、被害の低減と直訳できます。この治療法の考え方は、違法薬物の使用といった行為にフォーカスするのではなく、それらから生じる二次的な被害を軽減することを目的としたプログラムです。例えば違法薬物を使用する際、注射器の使いまわしによる血液感染を防ぐため、清潔な注射器を提供するなど、自他ともに安全にいられるための予防策を提案します。

依存症への向き合い方として、依存症によって周囲へ迷惑をかけないことは大切ですが、まずは自分自身を大切にすることに関心をもってもらうこと。そして何より当事者とつながりをつくることが大切だと私は考えています。

依存症に支配された行動は、一時的な安堵を得られますが、場合によっては違法行為につながることも少なくありません。そのため『止めたくても止められない病』は周囲から理解を得られにくく、『孤独の病』として一人で依存症を抱え悩み、そして一時的な安堵を得るために繰り返されます。

例えばアルコール依存症では、アルコールを摂りたい衝動が始まると自身では止められず苦しみます。そして摂取した後、後悔・自己嫌悪し、それを紛らわせるためにまたアルコールを摂取してしまいます。幸い入院に繋がり、集団プログラムや断酒会に参加しても、再摂取する可能性は『0』にはなりません。アルコールを摂らない1日1日を送ることが再入院せず健康悪化を防ぐことに繋がるとわかっていてもやめられません。

そしてこの病の回復には、人とのつながりや支えが不可欠です。この『孤独の病』へのハームリダクションは、アルコール摂取を防ぐことではなく、人が離れていくことに問題意識をもち、我々看護者が対象者にとって『支えることができる人』となることです。

当院では、コロナ禍で中断していたアルコール治療プログラムを先月から再開しました。今後もプログラムを通して、『支えることができる人』として、当事者と一緒に『孤独の病』という視点、そしてハームリダクションのあり方を共有していきたいと思います。

愛媛県認知症疾患医療センター・
十全ユリノキ病院からのお知らせ

第4回ユリノキ研修会を開催しました!

2017年度より、新居浜・西条圏域の医療福祉関係の皆さまを対象にした「ユリノキ研修会」を行っており、今年度は12月19日～21日の期間でWEB形式での研修会を開催しました。

テーマは「新型コロナウイルス感染症 対策と今後の展望」で、感染症と高齢者へのかかわり方についての動画講演を視聴していただきました。

3日間という期間でしたが、多くのご参加とアンケートへの回答をいただきました。動画視聴に関しては、一度に複数名の視聴もあったと考えると、視聴回数以上の方にご覧いただけたのではないでしょうか。

このままいくと、来年度以降も今回同様の形式、もしくは新たな形態を検討する必要がありそうです。これからも皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

院内学会

2020年10月24日㈯、十全ユリノキ病院院内学会を開催しました。今回の院内学会は感染対策として事前に発表を動画にし、ビデオ研修の形態をとりました。

当日は、認知症治療病棟・特殊疾患病棟・精神療養病棟・薬局・相談支援事業所の発表動画を上映しました。多様なテーマの発表に、参加者からはアンケート等で多くの反響がありました。

発表方法についても、参加者からは『変わった発表方法だったが、よく理解できるものだった』、『今後もこういった形態がいいのでは』といった前向きな感想が寄せられました。

今後も病院全体のスキルアップや意識向上を図り、よりよい医療の提供につなげていきたいと思います。